

事務事業名 筑紫野市立小学校体育施設一般開放事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：560

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090702-04-613
基本事業：	01	スポーツ施設の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	スポーツ施設満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成02年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民（児童、生徒、一般市民等）			市内小学校 11校の体育館及び運動場を毎週土曜日 9時から 12時まで市民の利用に開放する。 【中止日】夏季・冬季及び学年末休業日、祝日 開放時における利用者の危険防止や運営に当たる者として、管理指導員を筑紫野市シルバー人材センターと委託契約を行い、各小学校に1名ずつ配置している。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			[業務内容] ・就業日における体育館とグラウンドの管理 ・体育館とグラウンド利用者間の調整 ・マナー指導 ・利用状況の報告						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
体育館・運動場開放時の利用者数		人	10,508	10,724	12,000	12,000			12,000
5. コスト									
事業費		計	千円	1,389	1,461	1,633	1,939		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.1	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	782	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,171	3,066	3,309	1,939			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		状況 昨年度より利用者数は増加したが、大幅な増加には至っていない。 原因 本事業が広く市民に周知できていることが考えられる。 引き続き、地域でのイベントや親子のふれあいの場として利用していただけるように事業の周知に努める必要がある。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	・子どもの利用が多く、遊び場や憩いの場として有効と考えます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
子どもたちの居場所として継続して実施する。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
小学校週5日制の開始から、子どもたちの遊び場や憩いの場として、平成2年から市内小学校11校の体育館及び運動場を、毎週土曜日9時から12時まで開放。									

事務事業名 中学校ナイター施設運営事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：716

施 策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090702-01-610
基本事業：	01	スポーツ施設の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	スポーツ施設満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和53年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		（施設名） ・筑紫野中学校グラウンド ・筑山中学校グラウンド （開放時間） 午後7時から午後10時まで （開放曜日） 月曜日から土曜日まで （申請手続き） 勤労青少年ホームで受付 使用許可申請書を提出 使用許可書を受領 グラウンド利用				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
ナイター照明設備のある中学校のグラウンドを開放し市民に夜間のスポーツ活動の場を提供することで、生涯スポーツの推進を図る。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
筑紫野中学校ナイター施設利用者数	人	3,016	6,572	3,000	6,000			3,000
筑山中学校ナイター施設利用者数	人	3,016	2,654	3,000	3,000			3,000

5. コスト								
事業費	計	千円	50,858	1,176	1,418	1,491		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	17,383	1,176	1,374	1,440		
	一般	千円	33,475	0	44	51		
正職員人工数		人工	0.4	0.6	0.6			
正職員人件費		千円	3,126	4,814	5,029			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	53,984	5,990	6,447	1,491		

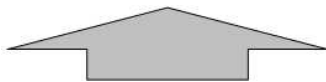
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	状況 筑山中学校グラウンドの利用者数は減少したが、筑紫野中学校の利用者は昨年度より増加した。 原因 筑山中学校グラウンドは、夜間照明改修事業（LED化）に伴い使用中期間があったため、利用者数は減少した。筑紫野中学校は、中学校サッカー大会の会場として使用されたことで利用者数が増加した。また、令和5年度にナイター照明をLED化したことで照度の明るい環境でスポーツをすることができるようになったことも利用者増の要因の一つと考えられる。 天候により利用できない日もあるため年度によって利用者数は増減する。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	昼間にスポーツができない市民が、夜間にできる身近なスポーツ活動の場として有効であると考えます。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）		備考・特記事項 or 進行管理欄						
昭和53年から使用開始。 昼間にスポーツができない市民が、夜にスポーツが出来ることによって心と体の健康を養い生涯スポーツ社会の実現に貢献する。								

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090702-02-611
基本事業：	01	スポーツ施設の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	スポーツ施設満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成02年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		（目的）小中学校体育施設（体育館、武道場、グラウンド）を市内の各種スポーツ団体に開放する。 （運営委員会） ・施設の適正かつ円滑な運営を図るため設置する。 ・委員長、副委員長を置き、利用方法など、地域、学校、行政と調整している。 （利用団体及び登録）市内に在住・在勤又は在学する者が5名以上で構成している団体であり、責任者として成人が含まれ、教育委員会に団体登録を受けることとする。 【利用時間】 ○小学校 体育館（平日）17:00～22:00（土曜日）12:30～22:00（日曜日・祝日）9:00～22:00 ○小学校 運動場（平日）17:00～19:00（土曜日）12:30～19:00（日曜日・祝日）9:00～19:00 ○中学校 19:00～22:00				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
各種スポーツの場の提供と、各種スポーツ団体及びグループの交流を促し、生涯スポーツの奨励を図る。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
利用団体数	団体数	177	168	200	180			200

5. コスト								
事業費	計	千円	4,281	3,714	5,168	10,771		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	4,700		
	その他	千円	0	270	0	0		
一般	千円	4,281	3,444	5,168	6,071			
正職員人工数	人工	0.3	1	1				
正職員人件費	千円	2,345	8,023	8,381				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	6,626	11,737	13,549	10,771			

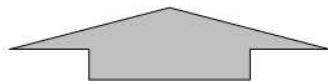
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	状況 活動を中止する団体があったが、新規団体もあり利用団体数は横ばいで推移している。 原因 学校の放課後や社会人の終業後など、使用を希望する時間帯が集中しやすく、新規の団体が希望する曜日、時間帯が既に定期団体の予約が入っていることから、新規団体が増えにくい状況である。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	・現状は、既に飽和状態なので、新規の団体が増えにくい。 ・施設予約のオンライン化				
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

・施設利用の有料化 受益者負担の観点から近隣自治体の水準や学校体育施設の維持管理に要する費用を考慮しながら利用料金を検討する。		
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）		備考・特記事項 or 進行管理欄
・平成2年から事業開始。学校教育に支障ない範囲で社会体育施設として開放。		

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	--
基本事業：	01	スポーツ施設の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツ施設満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成17年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		<p>【概要】市民の体力向上と水泳の振興を図るため、「筑紫野市立小学校プール開放の実施に関する規程」に基づき、夏季休業日における筑紫野市立小学校のプールを開放する。</p> <p>【開放施設】市内小学校11校のプール施設</p> <p>【開放日】夏季休業日のうち7月20日から8月9日まで（月曜日、学校行事がある場合は休場）</p> <p>【開放時間】午前10時から午後4時まで</p> <p>【利用料金】無料</p> <p>【運用体制】遊泳者の安全と施設の円滑な運営を図るためプール監視事業者に委託。プール監視員は、日本赤十字社認定の救急法基礎講習修了等の有資格者を配置する。</p>				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
市民の体力向上と健康増進、水泳の振興を図る						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
利用者数	人	11,671	12,068	18,000	15,000			18,000

5. コスト									
事業費	計	千円	22,082	24,798	26,059				
	国	千円	0	0	0				
	県	千円	0	0	0				
	地方債	千円	0	0	0				
	その他	千円	0	0	0				
一般	千円	22,082	24,798	26,059					
正職員人工数	人工	0.4	1	1					
正職員人件費	千円	3,126	8,023	8,381					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	25,208	32,821	34,440					

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	状況 利用者数はコロナ禍以降は増加傾向ですが、大幅な増加には至っていない。								
どちらかといえばあがっている	原因 猛暑の影響もあり屋外での利用を控えていることも要因の一つと考えられる。								
あがっていない（停滞・低下）	令和6年度 12,068人 令和5年度 11,671人 令和4年度 8,895人（新型コロナウイルス感染症対策で人数制限を行う） 令和3年度 0人（新型コロナウイルス感染症拡大による「中止」のため） 令和2年度 0人（新型コロナウイルス感染症拡大による「中止」のため）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	熱中症警戒アラートが連日発令されており、水中でも熱中症の危険性が高まっているため、開催時間短縮等も含め、今後のプール開放事業の在り方について検討する余地はあります。					
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
近年の利用者の時間毎の推移を分析しながら、開催期間や時間の見直しを含め今後のプール開放事業の在り方について検討する必要がある。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
代替市民プールとして平成17年度より事業開始。									

事務事業名 指定管理施設維持管理事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1483

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-12-606
基本事業：	01	スポーツ施設の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	スポーツ施設満足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成23年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		勤労青少年ホーム、農業者トレーニングセンター、筑紫運動広場、山家スポーツ公園、御笠運動広場の維持、管理、運営に関することを指定管理者に委託することにより、効率的な施設の運営を行う。 [スポーツ施設等の指定管理に関する基本方針] ・市民が安全・快適にスポーツ、レクリエーション活動に参加できる場を提供する。 ・施設の改善と利用者の理解と協力に向けた工夫を凝らしていく。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		平成25年10月1日に上原田公園の開園に伴い、公園の一部である多目的グラウンドの使用許可並びに使用料の徴収及び減免に関する事務を委託している。				
民間の知識や技術を取り入れることにより、市民にとって魅力ある施設の運営を行い、利用者の増加を図る。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標	
		実績	実績	当初	要求	計画	計画		
登録団体数	団体	102	93	120	120			150	
施設利用者数	人	155,394	162,935	185,000	175,000			190,000	

5. コスト									
事業費	計	千円	81,667	85,740	87,075	100,206			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	16,052	18,206	16,285	16,721			
	一般	千円	65,615	67,534	70,790	83,485			
正職員人工数	人工		0.4	0.7	0.7				
正職員人件費	千円		3,126	5,616	5,867				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		84,793	91,356	92,942	100,206			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	状況 施設利用者数は増加した。 原因 天候に恵まれたことで屋外スポーツ施設の利用者が増えたことが要因と考えられる。 屋外スポーツ施設は天候によって影響するため年度によって増減する。 【施設利用者数減の要因】 令和5年 農業者トレーニングセンターバスケットゴール更新工事のため利用中止期間あり 令和3年 新型コロナウイルス感染拡大防止のため全施設利用中止期間あり 令和2年 新型コロナウイルス感染拡大防止のため全施設利用中止期間あり								

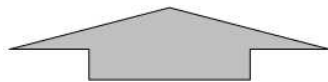
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	・施設予約のオンライン化やキャッシュレス決済の導入について検討の余地はあります。 ・水光熱費の高騰や老朽化に伴う設備の修繕等、施設の維持管理にかかる経費が増えてきていることから、受益者負担（使用料）の見直しについて検討の余地はあります。					
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし） ・人件費や水光熱費等、施設の維持管理にかかる経費を助案し、受益者負担（使用料）の見直しについて検討する。									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
施設の効果的な管理運営を行い、利用者の利便性を図る目的として平成23年4月から指定管理者制度を導入した。制度導入にあたり、本市の各種スポーツに精通し、22加盟団体から構成され専門性にも優れている筑紫野市体育協会と5カ年の委託契約を結んでいる。令和3年度に更新（5カ年）									

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-02-599
基本事業：	02	スポーツ団体・指導者・ボランティアの育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	養成講座により養成された指導者・ボランティア数 スポーツ・レクリエーション指導者数（有資格者） スポーツ・レクリエーション指導者の充足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分				実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市スポーツ推進委員			スポーツ推進委員は、次の業務を行う。 ・スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整 ・市民に対するスポーツの実技指導 ・スポーツに関する指導及び助言 スポーツ推進委員の各研修及び派遣業務 ・筑紫野市スポーツ推進委員研修会 ・筑紫地区スポーツ推進委員研修会 ・中部地区スポーツ推進委員研修会 ・福岡県スポーツ推進委員研修会 ・各種スポーツ大会運営補助 ・各校区市民体育祭、スポーツイベント運営 ・小学校体力テスト派遣						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
生涯スポーツを通じて、地域と行政、人と人をつなぐコーディネーターとして、地域において活動を行う									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
スポーツ推進委員に係る研修会等への延べ参加者数		人	565	567	500	500			500
5. コスト									
事業費		計	千円	3,898	3,654	5,093	4,644		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.4	0.4	0.4				
正職員人件費		千円	3,126	3,209	3,352				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	7,024	6,863	8,445	4,644			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		自主的な研修会や事業の実施、県等が開催する研修会への参加、各校区スポーツ(体育)振興会と連携して地域スポーツのコーディネーターとして活動している。また、小学校が実施している体力テストの補助員や地域で開催されるスポーツイベントへ審判、指導として参画する等活動の幅が広がっている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	スポーツ推進委員としての責務を全うするため、各人が積極的に学習を行うとともに、委員間での情報交換・共有を行い、相互練習が図られている。 次世代育成は課題。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
次世代育成については、スポーツ推進委員に、推薦地域と連携しながら人材確保に努めるよう働きかける。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和37年 市体育指導委員 設置 昭和50年 市体育指導委員に関する規則制定 平成23年 市スポーツ推進委員に名称変更 筑紫野市スポーツ推進委員に関する規則（昭和50年教委規則第11号）に基づき、地域スポーツの推進に寄与する事業を実施し					令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県等が開催する研修会やスポーツイベント等への参加が減となった。				

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-05-601
基本事業：	02	スポーツ団体・指導者・ボランティアの育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	養成講座により養成された指導者・ボランティア数 スポーツ・レクリエーション指導者数（有資格者） スポーツ・レクリエーション指導者の充足度		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ施設担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和43年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
一般社団法人筑紫野市スポーツ協会			一般社団法人筑紫野市スポーツ協会が、次の事業を実施するため補助を行う。 【主な事業内容】 ・スポーツ行事を実施及び援助すること ・スポーツに関する広報活動を行うこと ・加盟団体の育成強化と相互の連絡協調を図ること ・スポーツ少年団の育成を行うこと ・スポーツ振興について、関係行政機関の施策に協力すること ・スポーツに関する調査研究を行うこと ・スポーツに関する功労者等の表彰を行うこと						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
スポーツ協会を支援し、スポーツ協会に加入する多様なスポーツ団体の活動を促進させることで、市民が年齢や体力に応じたスポーツに関わることが出来る環境づくりを推進し、スポーツの振興を図る。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
体育協会会員数		人	4,828	5,029	5,300	5,300			6,500
5. コスト									
事業費		計	千円	3,360	3,360	3,360	3,360		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	3,360	3,360	3,360	3,360				
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,923	4,965	5,036	3,360			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない (停滞・低下)		状況 競技種目毎に毎年増減はあるものの、会員総数は増加している。 原因 スポーツ協会は加盟団体に対して、適切な組織運営を行うよう指導を行い、少年スポーツ指導者の育成や競技力向上のための研修会を開催するなど、会員確保に向けて活動している。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		筑紫野市スポーツ協会から筑紫野市スポーツ協会への名称変更や、コンプライアンスを守るためにガバナンス強化に努めるなど、少しずつではあるが、時代に応じた変化を推し進めている。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
筑紫野市スポーツ推進計画に基づき、スポーツ協会に様々な役割を果たしてもらいながら、体育協会と行政が協力しながら、市民のスポーツ活動の推進を図っていく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
スポーツ協会を支援し、スポーツ協会に加入するスポーツ種目団体の活動を促進させることで、市民が年齢や体力に応じたスポーツをする機会の充実につながるよう、昭和43年度に補助を開始した。									

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-03-600
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和40年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民			広報や市公式ホームページ、ポスターなどで参加者を募集し各行事を開催 [行事内容] いきいきニュースポーツ広場：スポーツ推進委員によるニュースポーツ体験と体力測定。 スポーツレクリエーション講習会：4回開催のレクリエーションの提供 法や、楽しさを学ぶ学習会。 生涯スポーツセミナー：スポーツを様々な視点で接近・楽しむ講習会。 筑紫野市民水泳大会：小学生から大人まで水泳に親しむ大会。 スポレクフェスタ：農業者トレーニングセンター等で、スポーツの体験 会やベタタンク大会を実施 筑紫野市駅伝大会：総合公園折返しコースを駅伝（チーム）で競う大会 筑紫野市応援デー（アビスパ・ライジング）：市民に「みるスポーツ」 を推進し、プロの試合観戦で改めてスポーツの良さを実感してもらう。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			さまざまな人々がふれあい、交流を深め、気軽に「する」「みる」「つどい」「つなぐ」ことが出来るようなスポーツ活動の場を提供する。							
さまざまな人々がふれあい、交流を深め、気軽に「する」「みる」「つどい」「つなぐ」ことが出来るようなスポーツ活動の場を提供する。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標	
			実績	実績	当初	要求	計画	計画		
各種事業、教室の参加者数		人	3,157	3,436	4,000	4,000			4,000	
5. コスト										
事業費		計	千円	1,929	2,358	3,282	5,289			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	1,929	2,358	3,282	5,289					
正職員人工数		人工	0.4	0.5	0.5					
正職員人件費		千円	3,126	4,012	4,191					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	5,055	6,370	7,473	5,289				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		生涯スポーツセミナーは、コロナ感染防止対策を契機に、会場と併せWEB（オンライン）を実施するなど、市民ニーズに合わせることで参加者数の増加に務めている。令和6年度は新たに、アビスパ福岡やライジングゼファーフクオカとの「筑紫野市応援デー」を実施し、「みるスポーツ」を推進できたことに加え、前年度に比べ参加者が300人増加できた。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	スポーツ推進計画に記載しているように、当該事業の意味合いは大きい。参加者ニーズに合わせるイベントとスポーツ推進に必要なイベントとのバランスをとっていく必要がある。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
参加者数は徐々に増加しているが、目標値からかなり外れている。各種事業・教室に尽力いただいている団体とともに、参加者数の増加に向けた内容の検討を行う										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
既存のスポーツは、スポーツ本来の楽しさを感じる技術に達するまで時間を要し、体力も必要となる種目が多い。こうしたことから、世代を問わずだれもが気軽に楽しめるスポーツの普及を地域に広める必要がある。						令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種事業・教室開催事業の中止等により、利用者数が減少した。				

事務事業名 地域スポーツ推進補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1133

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-06-602
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和39年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
各校区体育振興会等（10校区）			各校区が主体的に計画して開催されているペタンク大会やグラウンドゴルフ、ウォーキングなどのスポーツレクリエーション事業と毎年10月の「スポーツの日」に開催されている市民体育祭の支援						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			[補助金交付の流れ] 補助金交付申請書 補助金交付決定通知書 補助金概算請求書 補助金交付 実績報告書						
各校区の体育振興会で市民一人ひとりが、積極的に参加できるスポーツ・レクリエーションの機会が増えるように支援する。			[補助金の算定基礎] 体育振興会補助金：一律6万円（原田小学校区を除く9校区） 市民体育祭補助金：世帯数×50円+15万円（10校区）						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
市民体育祭の参加者数		人	1,987	6,545	10,000	10,000			10,000
各種事業の参加者数		人	2,175	2,256	3,000	3,000			4,000
5. コスト									
事業費		計	千円	4,366	4,387	4,540	4,570		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	4,366	4,387	4,540	4,570			
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費		千円	2,345	2,407	2,514				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	6,711	6,794	7,054	4,570			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和5年度は天候不良で市民体育祭の実施が見送られたところが多く参加者が少なかったが、令和6年度は天候に恵まれる参加者数の増加となった。コロナ禍前の数値には戻っていないが、徐々に増加しているため、引き続き各種事業に取り組んでいく。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		スポーツ推進計画にも記載しているように、当該事業は地域スポーツイベントと位置付けている。当該事業は、地域コミュニティによる力が大きいと見られるため、引き続き各校区スポーツ（体育）振興会、コミュニティ推進協議会に協力をお願いしていく。				
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性					維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
体育祭の在り方を各校区スポーツ（体育）振興会とも意見交換を行い、コロナ禍でのスポーツのありようも踏まえ、令和4年度から改めて、体育祭だけでなくそれに代わるようなスポーツイベントの実施も承認し、参加者の増加に向けた取組を進めている。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
市民体育祭補助金については、昭和39年度から開始し、各校区の体育振興会補助金については、昭和57年度に山家小学校区体育振興会が発足したことを受けて、昭和58年度から開始した。					令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための、市民体育祭、各校区の事業が中止となった。				

事務事業名 全国大会出場補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1134

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-07-603
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和53年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
全国大会に出場する市民や団体等			市民が、スポーツに関する全国規模の大会の出場に要する費用を助成する。 [助成対象大会] 学校教育の一環として、文部科学省、地方公共団体又は学校体育連盟等が主催し、共催し、又は後援し、かつ、筑紫野市教育委員会が認める大会など						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			[助成対象者] 地区大会等により選出された大会に出場登録した監督、コーチ、選手等であつて、かつ、市内に住所を有する者など [助成金の額] 1人あたり2万円。また、1団体当たり20万円を限度とする。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
全国大会出場の際に補助を活用した個人		人	109	116	98	98			55
全国大会出場の際に補助を活用した団体		団体	6	3	2	2			5
5. コスト									
事業費		計	千円	2,920	2,620	2,600	2,600		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	1,000	1,000	108	0		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,483	4,225	4,276	2,600			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		全国大会等の開催がコロナ禍前の水準に戻り、また本助成制度の周知が進んできたことで、高い水準で申請が行われている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		(課題) 体育奨励助成金の財源については、一般財源及び体育奨励基金にて運用してきたが、事業を継続するため、財源含めて改めて本事業の在り方を検討している。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
体育奨励助成金事業については、市民の中で定着しており、スポーツ振興や競技力向上にもつながる事業であるため、本事業については今後も維持する方向で検討する。 今後本事業を継続するために、財源の確保や支給要件の見直し等を引き続き検討する。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
スポーツ基本法第21条の規定に基づき全国大会に参加するための補助として、筑紫野市体育奨励基金条例第6条第1号に規定する全国大会出場等特別助成について必要事項を定め、出場する個人・団体に対して、筑紫野市におけるスポーツの推進に寄与し、今後の貢献に期待できるものとして支援する。									

事務事業名 天拝山ロードレース大会実行委員会補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1136

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-10-605
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和47年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
天拝山ロードレース大会実行委員会			場所：筑紫野市総合公園（天拝湖周回コース） 種目：10km【陸連公認】 高校男子、一般男女 5km【陸連公認】 中学男子、一般男女 2.5km 中学女子、万葉の筑紫路コース（小学4年以上）							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			ロードレース大会を開催することにより、生涯スポーツを推進し、健康の増進及び体力の向上につなげる。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
大会申込者数		人	744	673	1,300	1,300			1,300	
5. コスト										
事業費		計	千円	700	700	700	700			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	700	700	700	700					
正職員人工数		人工	0.6	0.6	0.6					
正職員人件費		千円	4,689	4,814	5,029					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	5,389	5,514	5,729	700				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	市外からの参加も多く、5km及び10kmコースは陸上競技連盟の公認コースとなっており、本市のスポーツイベントとして定着している。参加者数が依然として、コロナ禍前まで戻っていない。またマラソンということで、寒気のはじめである11月下旬開催が慣例となっているが、この時期は、他のマラソン大会や高校生の定期考査時期に重なるなど、参加者数の増減が見られる。									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	実行委員会による運営がなされている大会であり、資金が潤沢ではない。広告や協賛品などで事業費を賄っているが、レース専門機器等の借用経費などが、昨今の物価上昇に伴い、増加傾向にある。参加費の増額について、実行委員会に投げかけていく必要がある。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
レース種目については公認コースの縛りがあるため、種目以外での大会の魅力について、大会実行委員会と共に検討していく。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
昭和47年度から、市民の年齢や体力に応じた生涯スポーツの一環として、天拝山ロードレースを開催し続けてきたことで、年々参加者も増え、スポーツ振興が図られている。平成17年より、現在の筑紫野市総合公園天拝湖周回コースとなり、公認コースの受けるまで発展している。					令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大会の開催を中止した。					

施策：	04	スポーツの振興	財務コード	01090701-08-604
基本事業：	03	年齢や体力に応じた生涯スポーツの推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ企画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			生涯スポーツとして、各種のスポーツ教室及び大会等の開催を実施し、市民の年齢や体力に応じたスポーツの振興を図る。 専門性及び効果及び経費節減を考慮し、一般社団法人筑紫野市体育協会に業務委託している。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			（主な事業名） ・宝満つばきマラソン大会 ・弓道初心者教室 ・キッズサッカースクール ・ソフトテニス初心者教室 ・ソフトボール初心者教室 ・バドミントン初心者教室 ・剣道大会						
生涯スポーツとして各種のスポーツ教室等を開催し、各種のスポーツを体験することにより、自分にあったスポーツを日常生活の中に取り入れる環境づくりをする。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
スポーツ教室参加者数		人	420	221	3,000	3,000			6,000
スポーツ大会参加者数		人	1,157	655	1,800	1,800			1,800
5. コスト									
事業費		計	千円	450	470	500	500		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	450	470	500	500			
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,013	2,075	2,176	500			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		1,000人参加が見込めた宝満つばきマラソン大会が雨天中止となった。そのため、大会参加者数が目標値から大きく外れている。初心者教室として弓道、ソフトテニス、サッカー、ソフトボール、バドミントンを開催しているが、実人数での報告となっており、目標値から想定すると延べ人数が妥当であるため、参加者数のカウント法を周知していく。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	教室参加者については目標値が3,000人となっているが、予算規模から考えても、延べ人数が想定されていると考える。現在の報告書では実人数が報告されていりため、延べ人数の報告を求めていく。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
事業のマンネリが懸念されるが、初心者教室の性質上、事業手法は定型化されたものが多くなる。ただし、スポーツ人の掘り起こしを含むため、オンラインなどの市民ニーズに沿う事業展開について、関係機関と協議を行っていく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成7年度から市民の年齢や体力に応じた生涯スポーツとして各種のスポーツ教室等を開催し、各種スポーツを体験することで市民各自にあったスポーツを日常生活の中に取り入れる環境作りの一環として生涯スポーツ推進委託事業を行っているもの。					宝満つばきマラソン大会では、参加者の多くが子どもたちなので応援者も多く集まり、世代間交流に加え地域の交流という新たなコミュニケーションも生まれている。				